

## 早池峰山 奥鳥沢

2010年10月23日  
松田他1名

10月23日（快晴）

当初計画の葛根田 松沢はあまりにも寒いということで、転進した早池峰の岩トレの予定が、今度はあまりに天気がいいので岩稜が登れないということで、沢に転進となった。そもそも早池峰は登山道以外の所は立ち入り禁止で、天気がいい日は監視員がたくさん出て、夏道から丸見えのコメガモリ沢左岩稜は、全く無理だろうということなのである。今回は、岩手の沢の第一人者で、北上在住のS先生に連れられての山行となった。

北上から登山口までは、1時間もかからない。河原坊に車を置き、少し道に戻って岳沢に下り、転進した奥鳥沢という沢は、スニーカーでも登れる水量の少ない沢である。しばらく沢を辿ると、白い石が目立つようになり、そのうち大理石の岩床が沢の中に現れる。流水で磨かれた水流付近は真っ白で、まるで雪のようである。実に不思議な景色だ。真っ白なナメ床、大理石の岩床、何で採掘されないのか不思議な気がした。



大理石の沢床（雪ではない）

もう少し行くと、カールボーデンのような広場に出た。正面は奥壁のような緩いスラブ状の岩、向かいには白樺の林、反対側には薬師岳が緩やかなスカイラインを見せる。広場の端の豊かな湧き水は、何とも言えない甘みがあって驚かされる。絶好の宴会場だろう、とS先生が言った。確かにこんな所で月見をしたら最高だと思う。

のんびりしてから、正面の岩を登り始める。傾斜も緩く、2級くらいの岩場がかなり続くが、結構楽しめる。ここの岩は蛇紋岩という緑がかた岩で、とても珍しい感じ。早池峰山の地層は日本でも最も古いものらしく、何か不思議の国に迷いこんだオジサンのような気分である。ウスユキ草、ナンブトラノオなどいろいろな花を教えてもらった。

しばらく登って稜線に出ると、正面には岩手山の美しい山容が、右の奥には目立たないが、端正で控えめな感じの姫神山が見える。



蛇紋岩が目立つ、詰めのスラブ

早池峰山頂はさすがに賑やかで、たくさんの登山者、それに監視員が4人もいて、やはり左岩稜は無理だったなと思った。

下りの夏道はとても急で、いい加減降りて沢に入る所で、下から血相変えて登ってきた男性が、すれ違ってからすぐに戻ってきて、「親子連れを見なかったか」と聞くので、見てないと言う

と、真っ青になった。子供と奥さんが先に行ってしまう、後から追いかけたが見当たらず、きつと道以外の所に迷い込んだと言う。

すでに2時を過ぎ、4時半を過ぎれば暗くなるので、一緒に探すことにする。笛を吹いたり、コールを掛けたりしていると、夏道の左の沢形の200mくらい上部にそれらしい人影は見た。戻るように指示をして、お母さんと子供が戻ってくるのを待つ。しばらくして無事合流し、何はともあれ一件落着となる。

車に戻り、大迫町の宮沢賢治記念館に寄る。館長さんはS先生の友人で、早池峰山3000回登頂を最近達成しており、早池峰や宮沢賢治のことはものすごく詳しい。私も賢治は大好きだが、聞いたことない話をいろいろ教えてもらった。特に印象的だったのは、「どんぐりと山猫」や、「風の又三郎」の舞台が大迫町であるということ。

近くにモリブデン鉱山や、猫山を回るコースがあるそうで、ぜひ行ってみたいと思った、

花巻には新幹線の駅近くに宮沢賢治記念館があるが、私は大迫町の方が気に入ってしまった。全く知られていないが、雰囲気がいい。記念館を辞し、S先生を家まで送った時に、絶版となった著書「岩手の山」を頂いてしまった。部屋に帰って読むと、行きたい沢の記録ばかりで、来年のことをわくわくしてしまう。

うすゆき山荘直下の道の脇にあった湧き水は、賢治記念館の館長さんのお勧めで、これで入れたコーヒーはとても美味しかった。実にいろいろなことがあって、充実した一日であった。



行けなかったコメガモリ沢左岩稜



大迫町 宮沢賢治記念館

コースタイム

入渓(9:30) - 稜線(12:00) - 早池峰山頂(13:00) - 車(14:40)

地形図 早池峰山